

経済レポート

グラフで見る東海経済(2017年7月)

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

【今月の景気判断】

東海経済は持ち直しの動きが見られる。輸出は足下で横ばいとなっているが、生産は持ち直しの動きが見られる。雇用、賃金は持ち直しの動きが見られ、個人消費も、指標によるばらつきはあるが持ち直しの動きが見られる。設備投資は、非製造業を中心に増加している。住宅着工は、横ばい圏で推移している。公共投資は、弱含んでいる。

先行きについては横ばい圏の推移が見込まれる。生産は輸送機械が横ばいとなる中、全体としては緩やかな持ち直しが見込まれる。輸出は、世界経済が緩やかに持ち直す中、緩やかな持ち直しが見込まれる。消費は、所得環境の緩やかな持ち直しを見込むものの、横ばい圏での推移となろう。設備投資は増加基調、公共投資は均してみると横ばい圏の推移が見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗	☁	→	輸出	→	☁	↗
個人消費	↗	☁	→	輸入	→	☁	→
住宅投資	→	☁	→	生産	↗	☁☀	↗
設備投資	↗	☁	↗	雇用	↗	☁	→
公共投資	↘	☁	→	賃金	→	☁	→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

(注)2. シャド部分、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～トランプ大統領の政策の実行力と米景気への影響、欧米の金融政策の先行き、原油など資源価格の動向
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、自動車関連の生産動向、工作機械受注、インバウンド消費の先行き、企業収益と設備投資の動向
- ・政策～金融政策の今後の展開、内閣支持率の動向
- ・家計～賃金の改善状況と物価動向の家計消費への影響、資産価格変動の影響

～本レポートについては最終ページ[「グラフで見る東海経済」の見方]参照

【各項目のヘッドライン】

項目	6月のコメント	7月のコメント	ページ
1. 景気全般	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる	4~5
2. 生産	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる	6~8
3. 雇用	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる	8~9
4. 賃金	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる	10~11
5. 個人消費	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる	11~13
6. 住宅投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	14
7. 設備投資	非製造業を中心に増加している	非製造業を中心に増加している	15~16
8. 公共投資	弱含み	弱含み	17
9. 輸出入	輸出は持ち直し、 輸入は横ばい	輸出、輸入ともに横ばい	18~19
10. 物価	緩やかに上昇	緩やかに上昇	19
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	20
12. 倒産	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数は減少、負債総額は増加	20

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料: 「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】

9. 輸出入

5月の実質輸出(季調済)は前月比-0.3%と2ヶ月ぶりに減少し、横ばい圏での推移となっている。

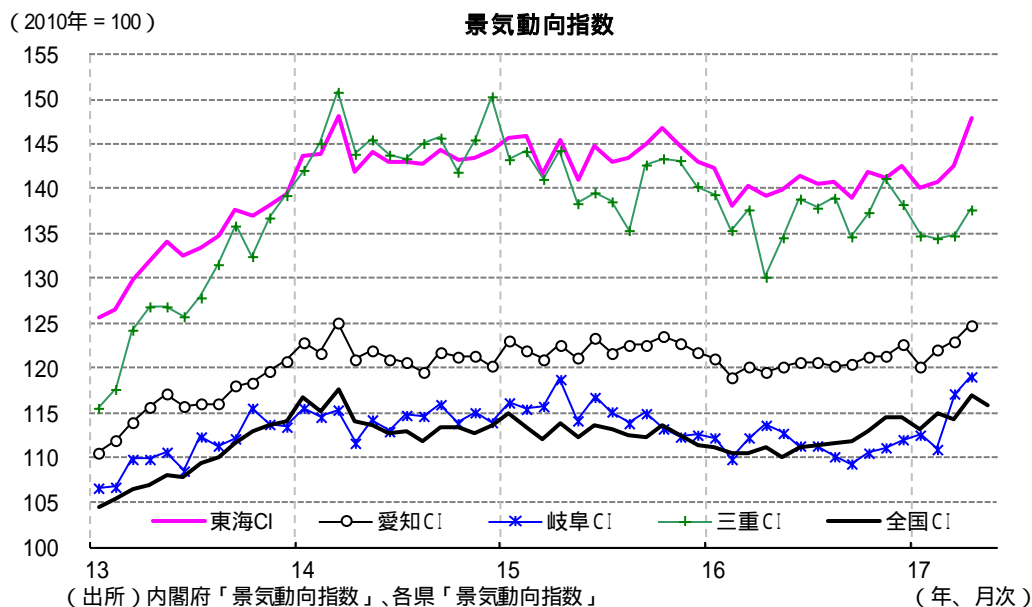
【主要経済指標の推移】

経済指標		16 4-6	16 7-9	16 10-12	17 1-3	17 4-6	17 1	17 2	17 3	17 4	17 5	17 6
景気全般	東海景気動向指数 (C I、一致指数)	139.8	139.4	142.9	141.4		140.9	140.8	142.5	147.8		
	景気動向指数 愛知 (C I、一致指数)	120.2	120.5	121.8			120.2	122.1	123.0	124.8		
	岐阜 (C I、一致指数)	112.6	110.3	111.3			112.6	111.0	117.2	119.1		
	三重 (C I、一致指数)	134.6	137.2	139.0			134.8	134.5	134.8	137.7		
	景気ウォッチャー調査 (現状判断DI、季節調整値)	41.4	44.7	49.1	49.6	50.7	49.6	50.3	48.9	49.4	50.0	52.7
	(先行判断DI、季節調整値)	42.2	47.9	51.1	49.4	49.1	48.1	52.3	47.8	48.2	49.4	49.7
短観業況判断DI (製造業)	(非製造業)	-3	-2	4	6	9	8	<6月予想>				
	(非製造業)	6	6	12	11	13	5	<6月予想>				
法人企業統計経常利益 製造業(兆円)		0.8	0.6	0.9	0.7							
	非製造業(兆円)	0.5	0.4	0.3	0.2							
生産	鉱工業生産 (季節調整済、前期比・前月比)	2.4	2.3	0.9	-1.2		-2.9	2.8	-1.0	8.3	-6.9	
	鉱工業出荷 (季節調整済、前期比・前月比)	2.1	2.1	1.7	-1.5		-3.7	4.0	-1.8	7.7	-7.4	
	鉱工業在庫 (季節調整済、前期比・前月比)	1.2	-3.9	-4.8	-5.9		-3.8	-3.2	3.9	-4.6	-1.5	
	鉱工業生産 輸送機械 (")	5.0	3.4	0.7	-3.8		-6.4	3.5	-2.0	15.7	-17.6	
	はん用・生産用・業務用機械 (")	-0.8	-0.1	3.9	0.4		-2.3	1.4	0.0	4.1	-2.2	
	電子部品・デバイス工業 (")	-4.5	0.1	1.1	4.4		13.0	-2.4	-9.9	15.3	5.5	
	プラスチック製品工業 (")	3.0	5.0	-2.0	-3.1		-4.8	2.6	0.7	8.3	-8.4	
	化学 (")	9.5	1.9	1.7	-0.7		-6.3	1.6	11.1	-7.7	1.2	
	電気機械 (")	2.2	5.0	3.3	-0.1		-10.9	10.4	9.3	-5.4	-6.0	
	鉄鋼 (")	4.8	0.1	2.3	3.7		1.1	3.1	0.7	1.0	-4.9	
金属工作機械受注 総受注(億円)		351.9	337.0	350.1	343.1		323.7	321.1	384.5	422.2	391.9	
	国内受注(億円)	130.6	135.8	126.2	121.0		108.1	116.7	138.2	149.9	152.8	
	海外受注(億円)	221.4	201.2	223.9	222.1		215.6	204.4	246.3	272.3	239.1	
雇用	完全失業率(原数値、%)	2.5	2.3	2.5	2.3							
	就業者数(原数値、万人)	788	783	782	796							
	常用雇用指数 愛知	100.5	101.0	101.1	100.0		100.0	100.0	99.9	101.1		
	岐阜	102.3	102.5	102.0	101.7		102.1	101.6	101.5	102.2		
	三重	99.6	100.1	100.1	99.4		99.6	99.4	99.3	100.6		
	有効求人倍率 愛知(季節調整値、倍)	1.6	1.6	1.7	1.7		1.70	1.72	1.77	1.82	1.86	
岐阜(季節調整値、倍)	1.8	1.7	1.7	1.7		1.70	1.69	1.75	1.80	1.79		
三重(季節調整値、倍)	1.4	1.5	1.5	1.5		1.46	1.44	1.47	1.54	1.61		
新規求人倍率 愛知(季節調整値、倍)		2.5	2.5	2.7	2.7		2.64	2.53	2.89	2.76	2.91	
	岐阜(季節調整値、倍)	2.5	2.4	2.4	2.5		2.49	2.31	2.58	2.49	2.43	
	三重(季節調整値、倍)	2.0	2.1	2.1	2.1		2.08	2.00	2.13	2.27	2.39	
賃金	現金給与総額	0.7	-0.5	0.7	0.2		0.6	0.9	-0.9	0.5		
	所定内給与	-1.0	0.8	0.8	0.9		1.1	0.7	1.0	1.4		
	所定外給与	0.0	-3.6	-3.5	-2.3		-3.4	-0.1	-3.5	-2.4		
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入 勤め先収入	-1.3	-2.9	1.4	6.7		11.3	7.2	1.9	-0.5	-0.7	
定期収入	-3.7	-2.3	0.3	4.7		8.1	3.9	2.3	-3.2	-3.2		
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出	4.2	3.7	2.0	-9.1		-9.3	-8.9	-9.0	-14.1	5.0	
	百貨店販売額(名古屋市内)	-0.8	-14.3	-4.5	0.0	-4.1	-1.9	0.5	1.4	-2.5	-0.8	0.6
	百貨店+スーパー販売額	-6.2	1.3	1.2	-1.5		-1.8	-2.2	-1.9	-1.2	-1.6	
	コンビニエンスストア販売額	2.7	3.2	4.5	2.3		3.6	0.4	2.9	3.3	2.9	
	新車登録台数(含む軽)	-1.3	3.0	7.3	6.7	12.2	2.0	9.1	8.0	7.2	13.2	15.3
	家電大型専門店販売額	1.2	-3.2	0.3	1.8		-2.0	0.0	7.1	10.7	3.6	
消費者態度指数(一般世帯、原数値)		40.9	41.4	41.1	42.7	43.7	42.2	41.9	44.0	42.9	44.2	44.1
	トヨタ国内生産台数(季節調整済、万台)	25.4	27.6	26.8	26.4	26.0	25.8	26.4	26.9	26.4	25.7	25.8
住宅投資	新設住宅着工戸数(季節調整済年率換算、千戸)	106.6	111.5	108.8	106.5		101.4	110.9	107.2	108.0	105.2	
	(前年比、%)	0.6	5.1	8.6	0.2	0.1	-0.1	2.3	-1.5	2.1	-2.4	
設備投資	法人企業統計設備投資(製造業)	11.3	-6.6	-0.8	-7.5							
	(非製造業)	22.9	9.5	17.9	29.5							
企業立地件数	-	-	-	-	-	9	12					
公共投資	公共工事請負額	-10.4	3.2	-10.2	20.7	3.5	10.5	49.9	10.2	-4.4	14.7	8.5
輸出入	実質輸出(季節調整済、2015年=100)	98.1	99.5	101.0	101.1		97.6	103.8	102.0	102.5	102.2	
	通関輸出(金額ベース、円建て)	-8.4	-10.8	-6.7	3.5	7.1	-6.4	8.7	7.2	4.8	12.2	5.3
	実質輸入(季節調整済、2015年=100)	96.2	94.5	95.9	96.6		97.0	93.8	99.1	96.2	93.4	
	通関輸入(金額ベース、円建て)	-19.1	-22.4	-12.6	6.0	9.0	3.5	1.5	12.8	11.9	7.3	8.0
物価	消費者物価指数(除く生鮮)	-0.6	-0.6	-0.4	0.2		0.1	0.2	0.4	0.4	0.5	
	(食料及びエネルギーを除く総合)	0.5	0.1	0.0	-0.1		0.0	-0.2	-0.2	-0.3	-0.3	
金融	国内銀行預金残高	3.0	3.3	3.8	3.5		3.8	3.3	3.4	3.2	3.1	
	国内銀行貸出残高	1.3	1.4	2.4	3.2		3.0	3.3	3.3	3.8	3.5	
倒産	倒産件数	-11.1	-4.4	26.6	0.0	3.6	2.2	7.3	-6.8	10.7	8.6	-5.1

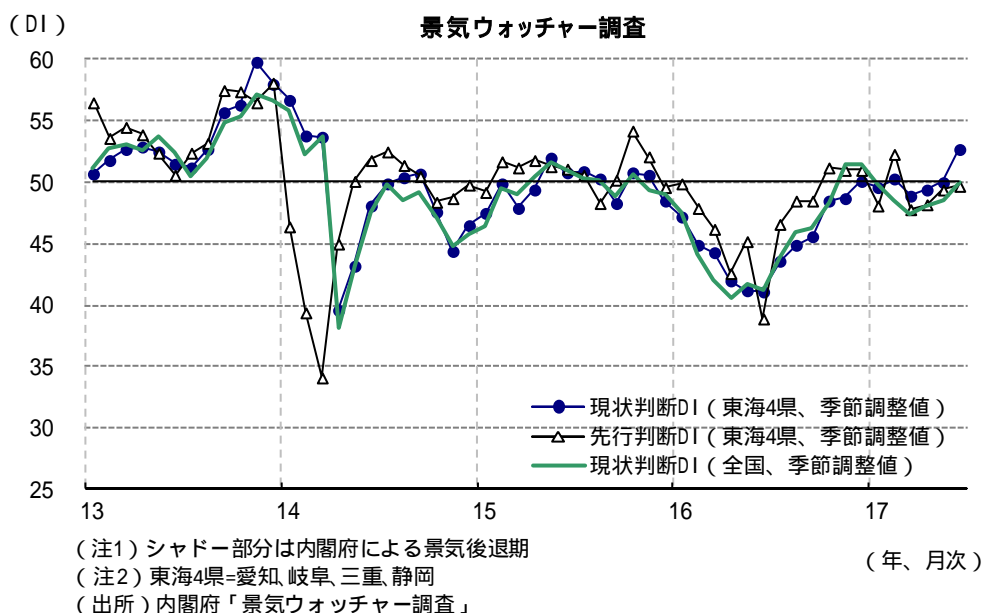
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~持ち直しの動きが見られる

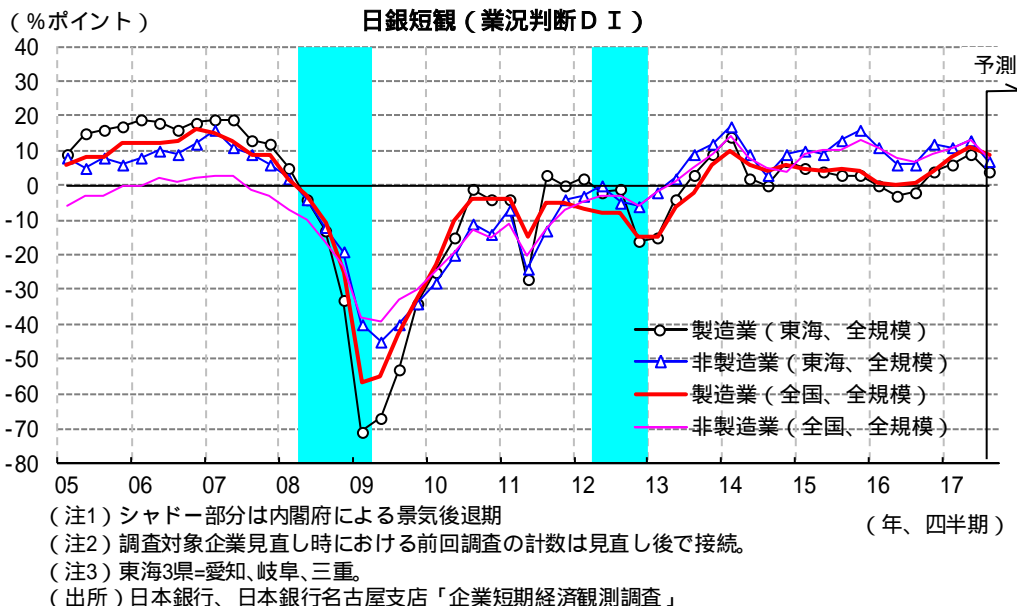
4月のMURC東海景気動向指数(CI一致指数)は、採用系列7系列のうち、生産指数(鉱工業)、生産指数(金属工作機械)、大型小売店販売額などの4系列がプラス寄与となって前月差+5.2の147.8と3ヶ月連続で上昇した。各県の動向を見ると、4月の愛知県のCI一致指数は3ヶ月連続で上昇し、岐阜県、三重県は2ヶ月連続で上昇した。



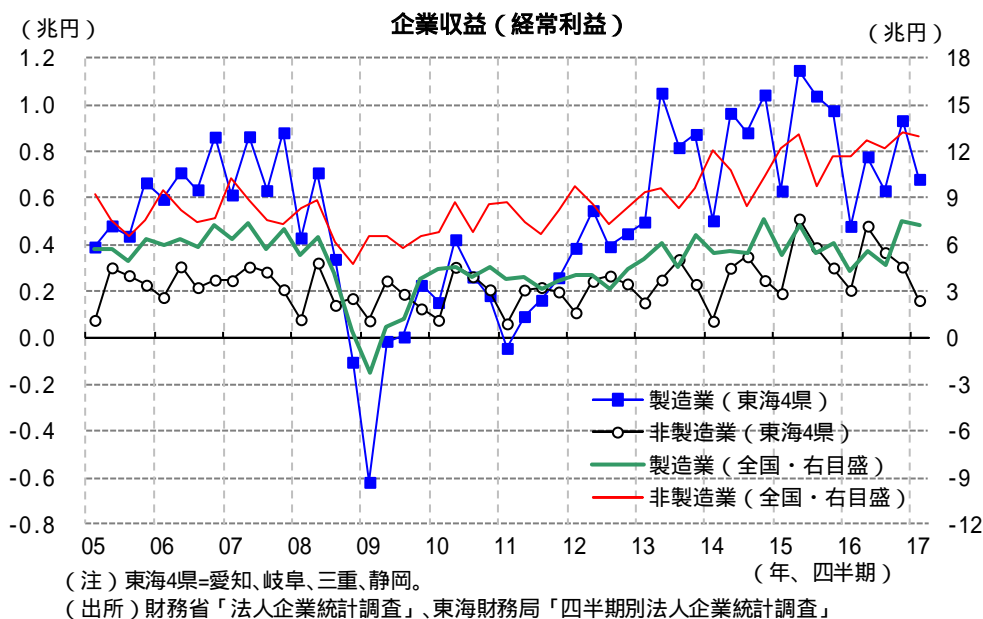
6月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断DI(季節調整値)が前月差+2.7の52.7と3ヶ月連続で上昇した。景気マインドは、持ち直しの動きが広がっている。また、先行き判断DI(季節調整値)は同+0.3ポイントの49.7と3ヶ月連続で上昇した。ボーナス、夏休み、夏の暑さといった季節要因に加え、受注や販売の伸びに期待する声広がっている。



日銀短観6月調査によると、東海3県の業況判断D I(「良い」-「悪い」)は、全産業[全規模]で+11と前回3月調査から2ポイント上昇、製造業[全規模]では+9と、前回3月調査から3ポイント上昇、非製造業[全規模]では+13と2ポイント上昇した。規模別では、製造業、非製造業ともに、大企業、中堅企業、中小企業のいずれもが3月調査から改善した。先行きについては、製造業、非製造業ともに全規模で悪化が見込まれる。

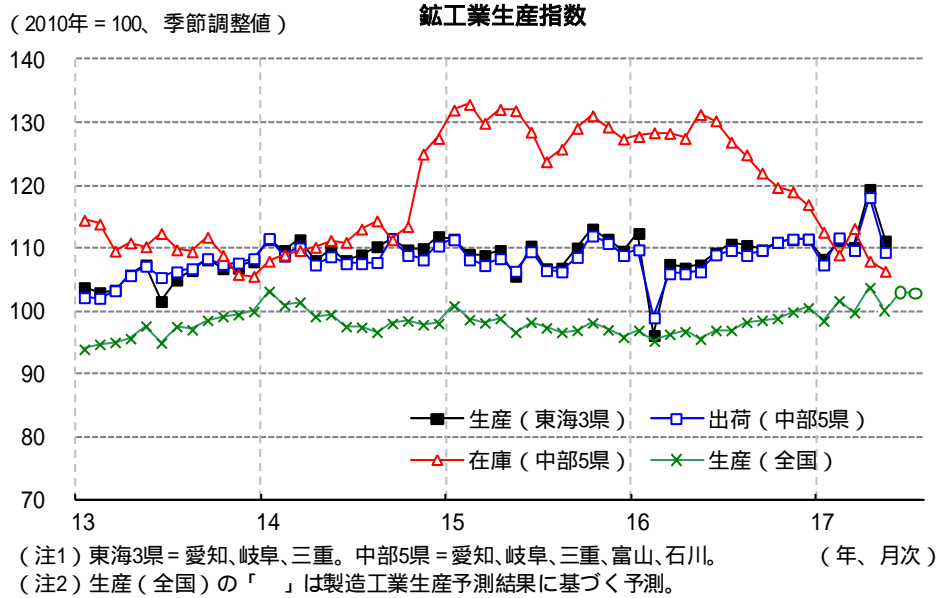


2017年1~3月期の東海4県の大企業の経常利益は前年同期比で+23.1%と6四半期ぶりに増加した。非製造業は同-21.3%と2四半期ぶりに減少したが、製造業が同+42.0%と6四半期ぶりに増加した。日銀短観6月調査を見ると、東海企業の16年度の経常利益(全産業)は同-15.9%と減益となった。17年度は全産業で同-6.8%、製造業で同-5.9%、非製造業で同-9.2%といずれも減益を見込んでいる。

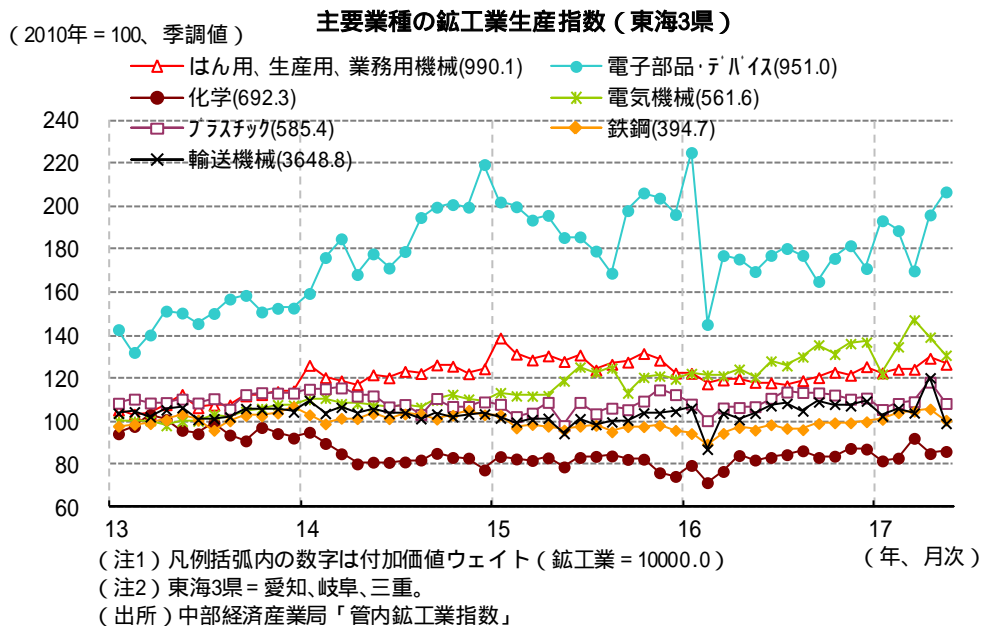


2. 生産 ~持ち直しの動きが見られる

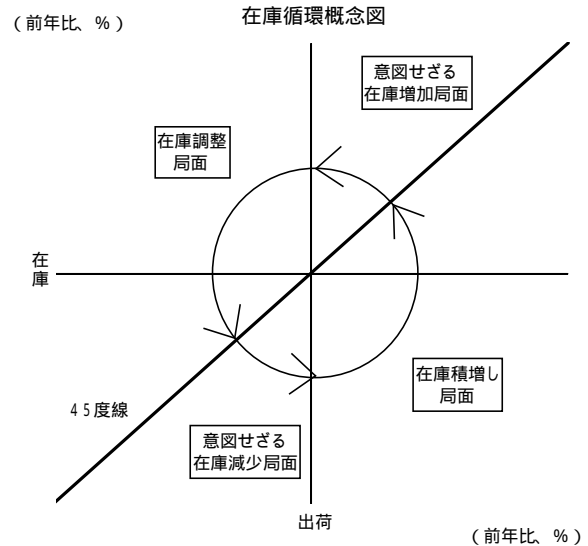
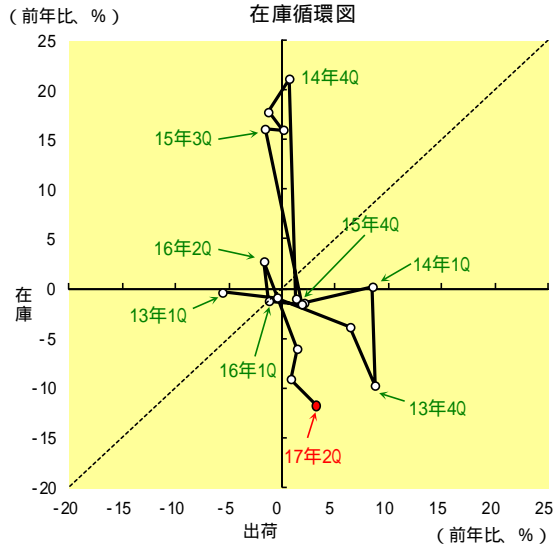
5月の東海3県の鉱工業生産は前月比 - 6.9%と2ヶ月ぶりに減少した。電子部品・デバイスなどが増加したが、輸送機械、はん用・生産用・業務用機械、電気機械などが減少した。東海の実績は均して見ると持ち直しの動きが見られる。先行きについては、主要業種である輸送機械で横ばいが見込まれる中、全体としては緩やかな持ち直しが見込まれる。



業種別では、電子部品・デバイス(前月比 + 5.5%)は2ヶ月連続で増加、化学(同 + 1.2%)は2ヶ月ぶりに増加したが、輸送機械(同 - 17.6%)は2ヶ月ぶりに、はん用・生産用・業務用機械(同 - 2.2%)とプラスチック製品(同 - 8.4%)は4ヶ月ぶりに減少し、電気機械(同 - 6.0%)は2ヶ月連続で、鉄鋼(同 - 4.9%)は9ヶ月ぶりに減少した。

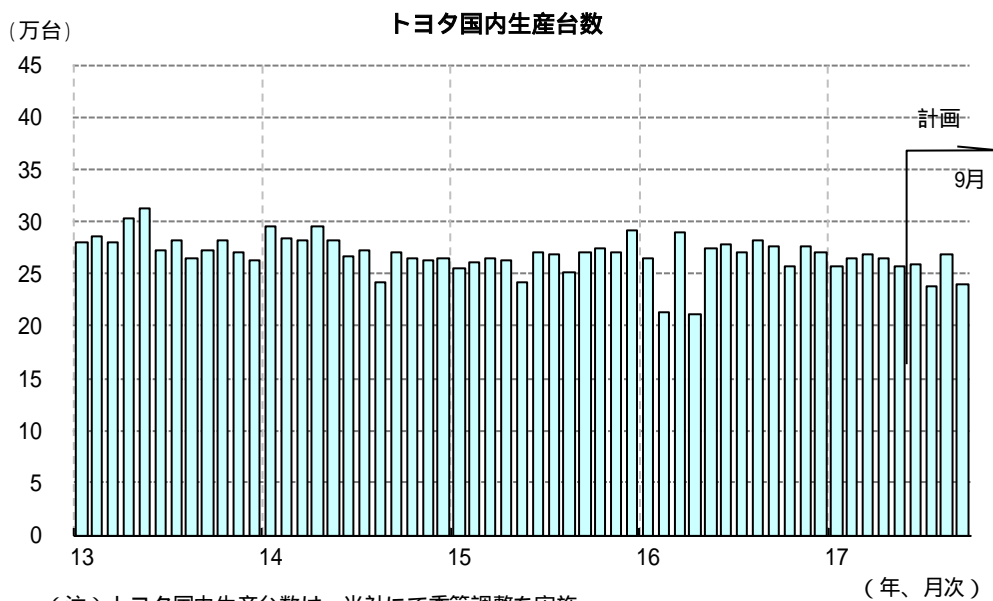


5月の中部5県の出荷は、前月比 - 7.4%と2ヶ月ぶりに減少した。輸送機械(同 - 17.9%)、電気機械(同 - 7.0%)、電子部品・デバイス(同 - 2.9%)などが減少した。在庫は、同 - 1.5%と2ヶ月連続で減少した。輸送機械(同 + 20.2%)、電子部品・デバイス(同 + 9.7%)などが増加したが、はん用・生産用・業務用機械(同 - 4.9%)、電気機械(同 - 8.4%)などが減少した。



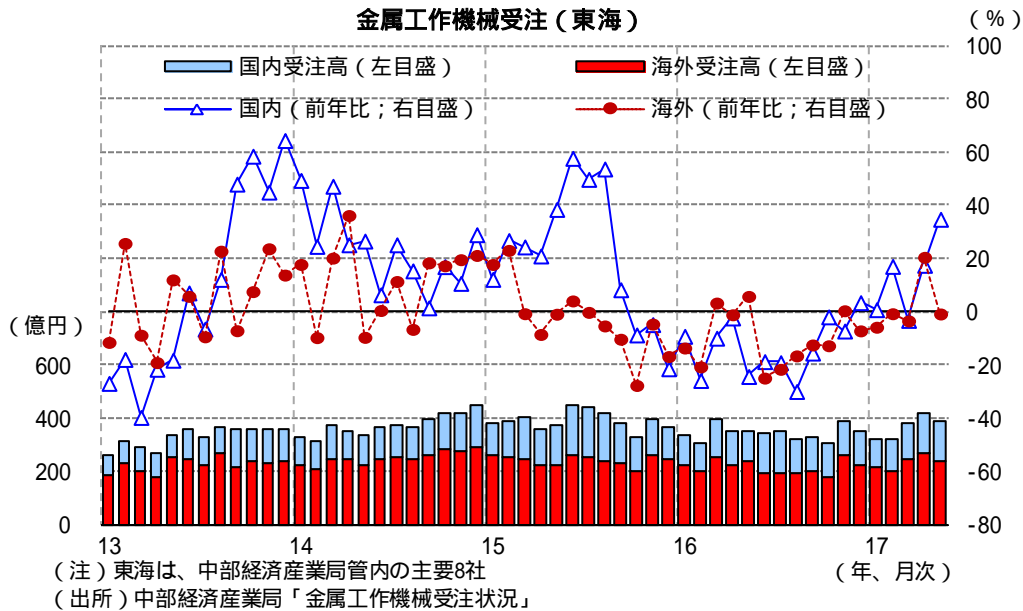
(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、富山、石川。
 (注3) 直近17年2Qの出荷は4.5月平均、在庫は5月の前年比
 (出所) 経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

中部経済新聞社報道のトヨタ自動車国内生産計画によると、向こう3ヶ月(17年7~9月)の国内日当たり生産台数は1万2500台前後で推移する見込みである。季節調整済みの数字で見ると、17年に入ってから生産は昨年秋頃に比べるとやや低い水準で推移しており、先行きについてはほぼ横ばいの計画となっている。



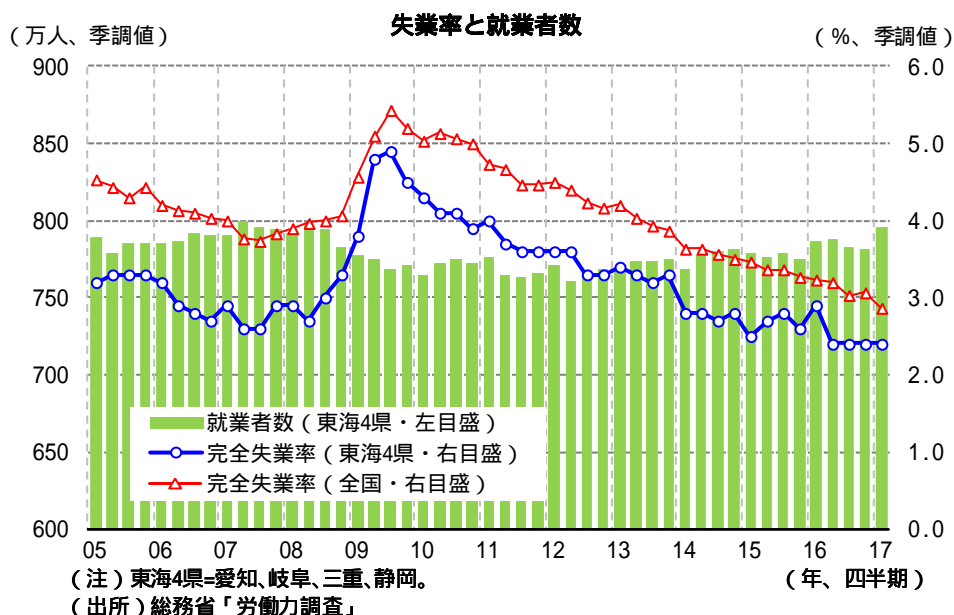
(注) トヨタ国内生産台数は、当社にて季節調整を実施。
 (出所) トヨタ自動車「生産・国内販売・輸出実績」、中部経済新聞「トヨタ生産計画」

17年5月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比+10.7%と2ヶ月連続で増加した。海外受注(同-0.7%)は2ヶ月ぶりに減少したが、国内受注(同+34.9%)は2ヶ月連続で増加した。地域別では、米国向けは4ヶ月連続で増加し、中国向けは5ヶ月連続で増加、欧州向け、アジア(含む中国)向けはそれぞれ2ヶ月連続で増加した。

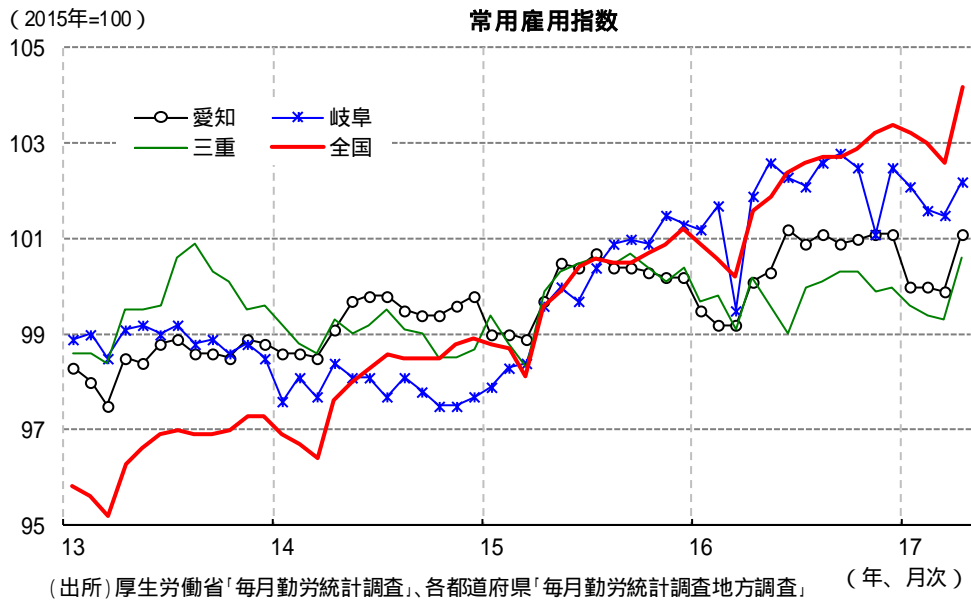


3. 雇用 ~持ち直しの動きが見られる

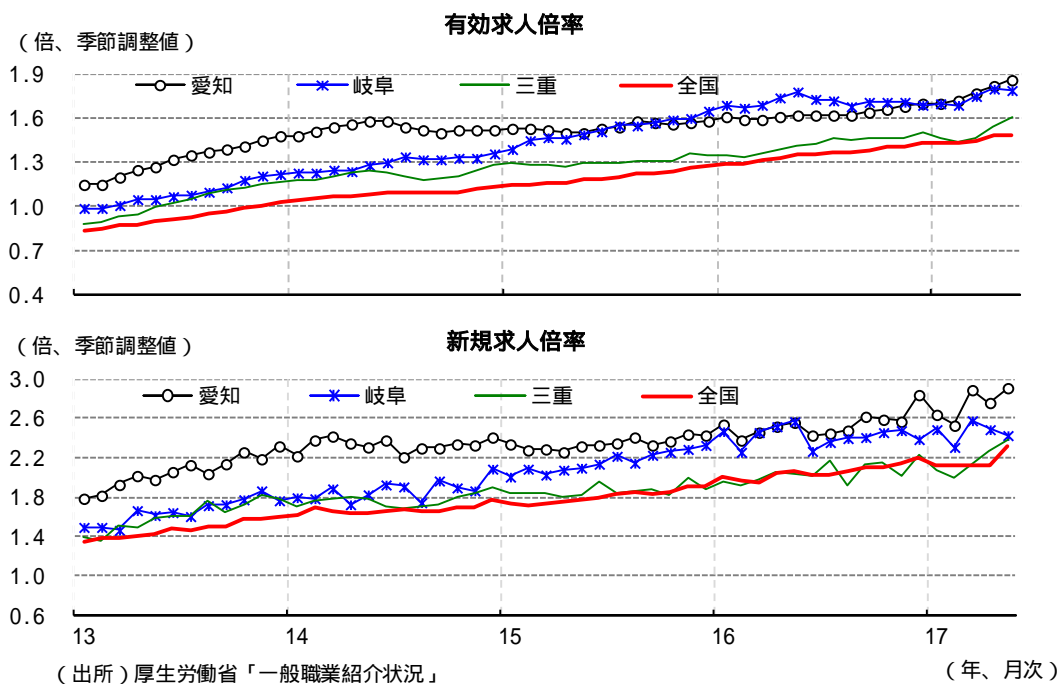
2017年1~3月期の東海4県の完全失業率は2.4%(前期と同水準)となり、全国(2.9%)と比べても低い水準で推移している。同時期の就業者数は前期差14万人の増加、完全失業者は前期と同水準となった。人手不足の状況が続いており、有効求人倍率は緩やかに上昇している。一方、東海3県の常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きとなっている。



3月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比+1.0%と11ヶ月連続で上昇し、岐阜県(同+0.3%)と三重県(同+0.4%)はそれぞれ2ヶ月連続で上昇した。東海3県の常用雇用指数は、前年比で見て、3県いずれも全国(同+2.6%)に比べて弱い動きとなっており、横ばい圏で推移している。

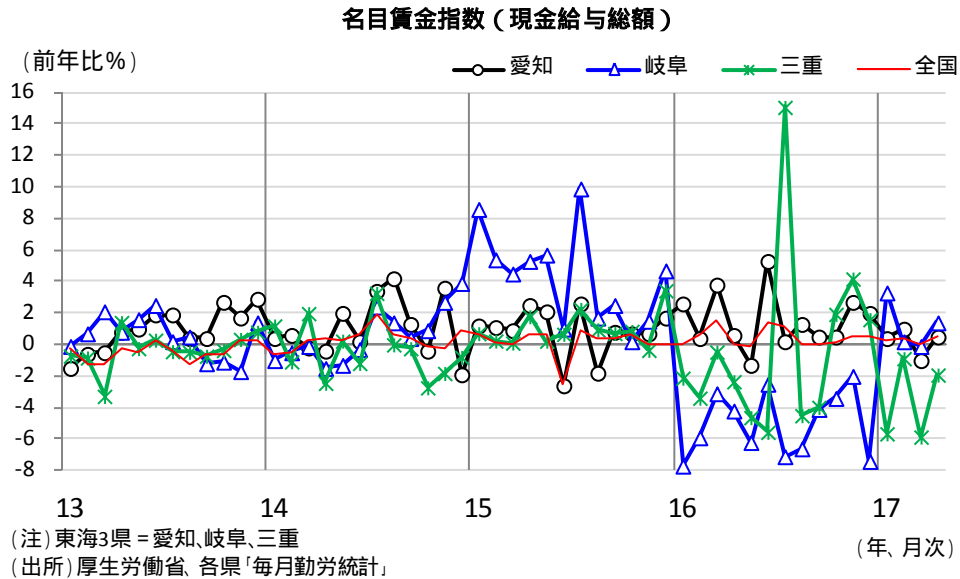


東海3県の有効求人倍率(季節調整値)は、5月は岐阜県(1.79倍)が3ヶ月ぶりに低下したが、愛知県(1.86倍)は4ヶ月連続で上昇し、三重県(1.61倍)は3ヶ月連続で上昇した。また、有効求人倍率に先行する新規求人倍率(同)は、岐阜県(2.43倍)は2ヶ月連続で低下したが、愛知県(2.91倍)は2ヶ月ぶりに上昇し、三重県(2.39倍)は3ヶ月連続で上昇した。

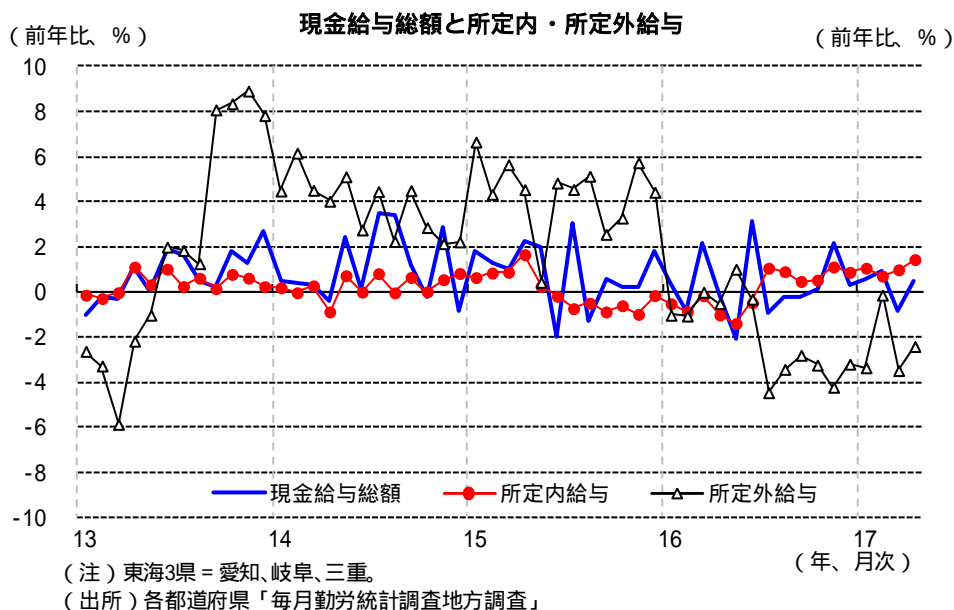


4. 賃金 ~持ち直しの動きが見られる

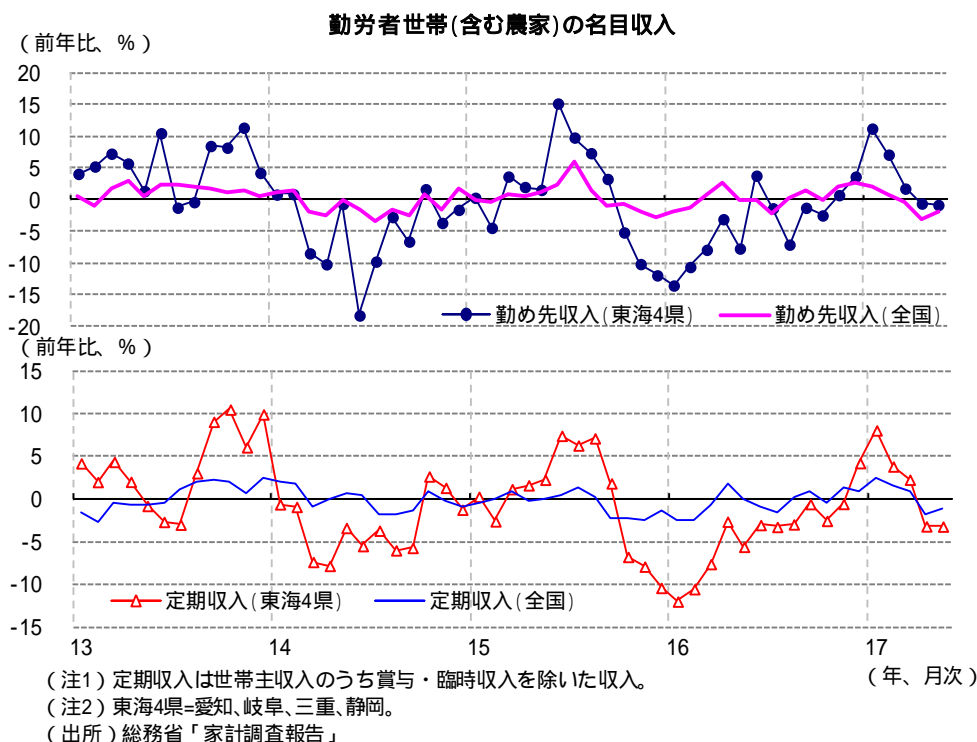
東海3県の4月の名目賃金指数(現金給与総額)をみると、三重県は前年比 - 1.9%と4ヶ月連続で低下したが、愛知県は同 + 0.5%、岐阜県は同 + 1.4%とともに2ヶ月ぶりに上昇した。東海3県の賃金は月毎の変動が大きいですが、均してみると横ばい圏で推移する中、所定内給与が増加するなど持ち直しの動きが見られる。今後については、横ばい圏での推移が見込まれる。



東海3県の4月の一人当たり現金給与総額(加重平均)は、前年比 + 0.5%と2ヶ月ぶりに増加した。内訳をみると、所定外給与は同 - 2.4%と11ヶ月連続で減少したが、所定内給与は同 + 1.4%と10ヶ月連続で増加した。

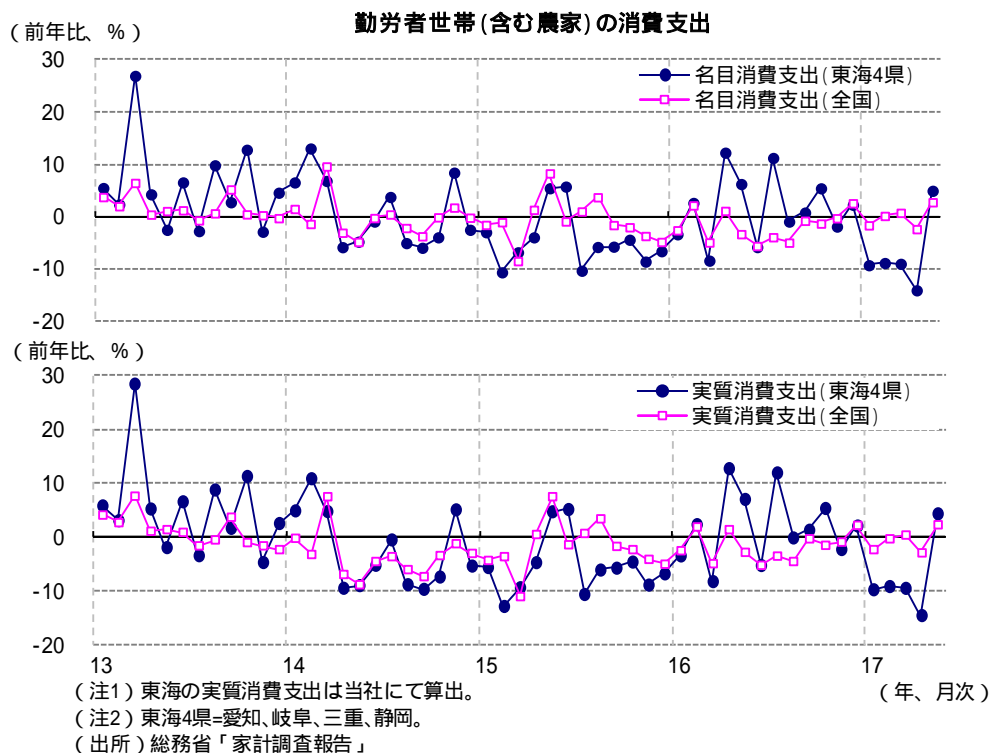


家計調査によると、5月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比-0.7%と2ヶ月連続で減少した。また、定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)は同-3.2%と2ヶ月連続で減少した。

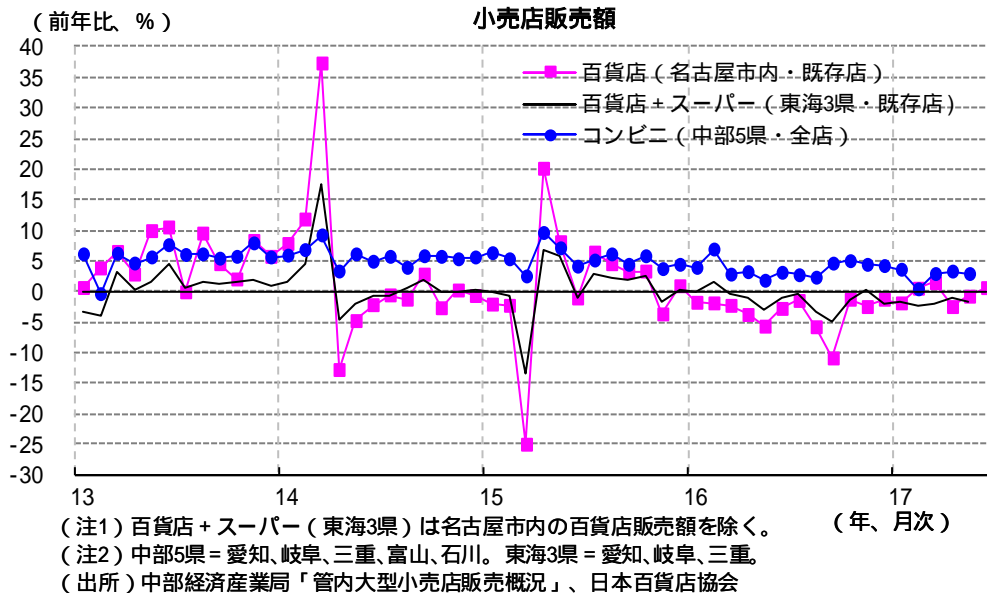


5. 個人消費 ~ 持ち直しの動きが見られる

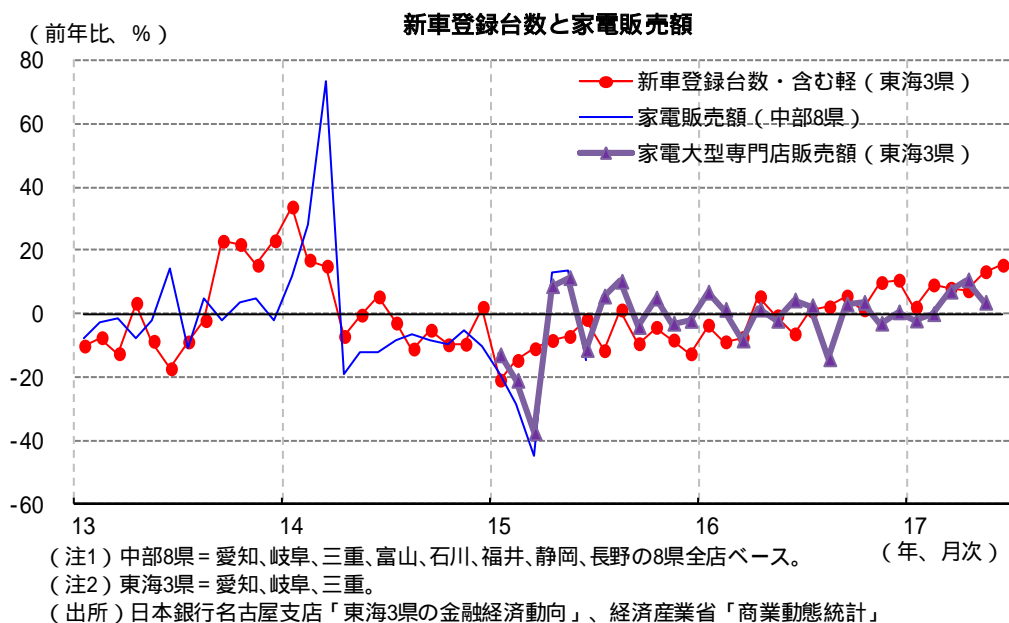
5月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の消費支出は、名目で前年比+5.0%、実質で同+4.3%と、いずれも5ヶ月ぶりに増加した。他の消費関連の指標も合わせてみると、東海の個人消費は持ち直しの動きが見られる。今後の個人消費は、実質賃金の増加はあまり期待できず、節約志向も続いており、横ばい圏での推移が見込まれる。



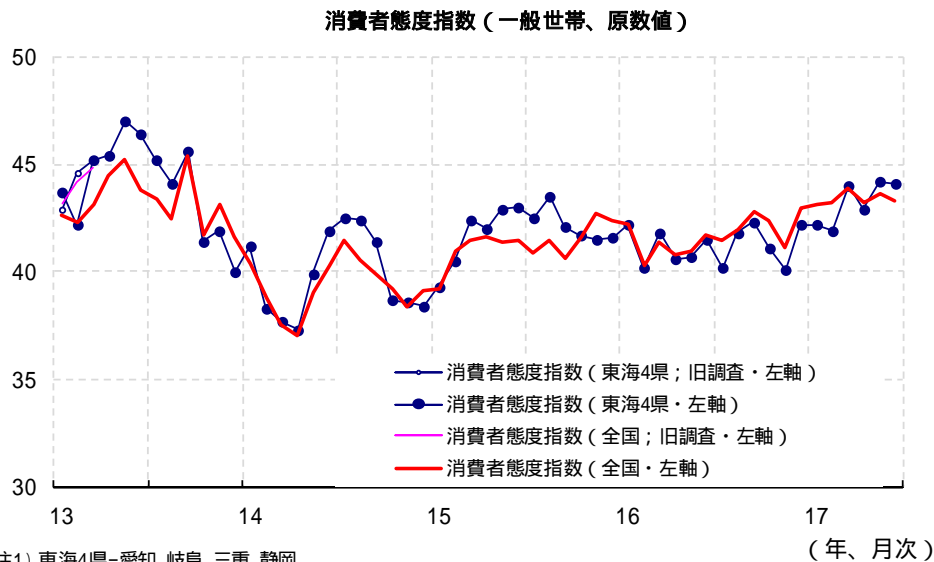
5月の東海3県の大型小売店（百貨店＋スーパー、既存店）の販売額は前年比 - 1.6%と6ヶ月連続で減少した。一方、5月の中部5県のコンビニ販売額（全店）は、同 + 2.9%と増加が続いた。6月の名古屋市内の百貨店販売額は、同 + 0.6%と3ヶ月ぶりに増加した。名古屋駅前の新館開業による集客効果が続いていることに加え、夏のセールの前倒しが売上高を押し上げているとみられる。



6月の東海3県の新車登録台数（乗用車、含む軽）は、普通乗用車は前年比 + 10.2%と5ヶ月連続で増加、小型乗用車は同 + 13.8%と8ヶ月連続で増加、軽自動車販売は同 + 25.7%と3ヶ月連続で増加し、全体で同 + 15.3%と12ヶ月連続で増加した。また、5月の東海3県の家電大型専門店販売額は、同 + 3.6%と3ヶ月連続で増加した。



消費者マインドを表す消費者態度指数(東海、一般世帯、原数値)は、6月は前月差-0.1ポイントと2ヶ月ぶりに低下した。東海の消費者マインドは均して見ると緩やかに持ち直している。今後については、景気が横ばい圏で推移し、内外情勢の先行き不透明感が続く中で、消費者マインドは横ばい圏での推移が見込まれる。



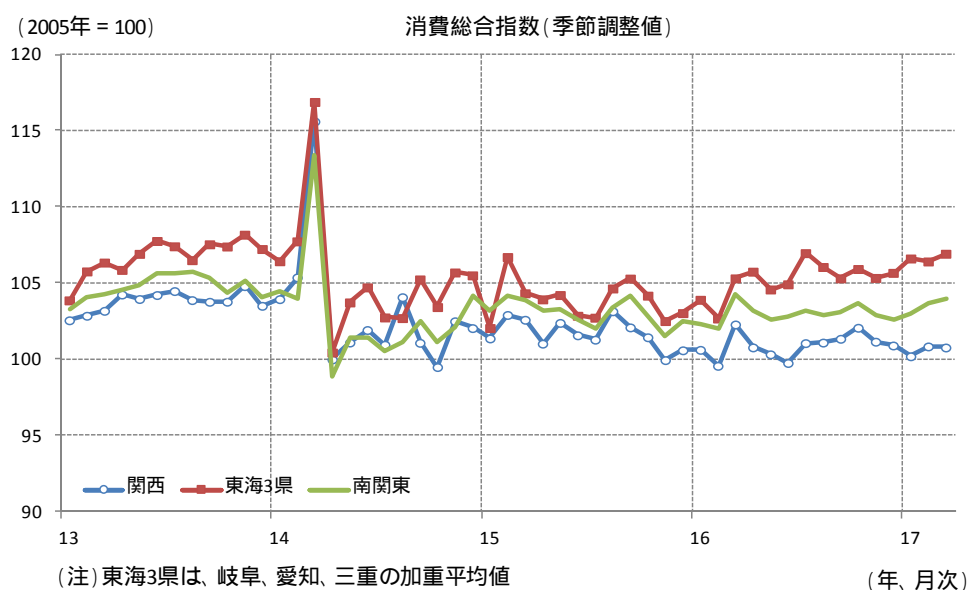
(注1) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。

(注2) 消費者態度指数は一般世帯、東海4県は原数値、全国は季節調整値。

2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。
郵送調査の2012年7月～2013年3月は試験調査による参考値。

(出所) 内閣府「消費動向調査」

内閣府が5月に公表した地域別消費総合指数によると、東海3県のサービス消費を含む個人消費は、2014年4月の消費税率引き上げ後、水準を下げて横ばい圏で推移してきたが、16年3月以降は水準を幾分上げて、緩やかに持ち直している。

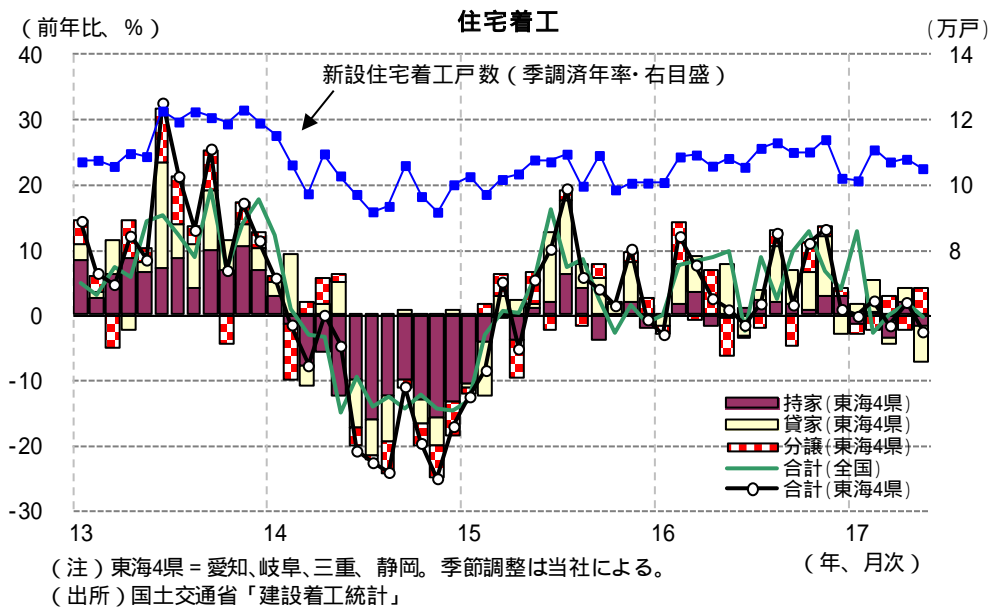


(注) 東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値

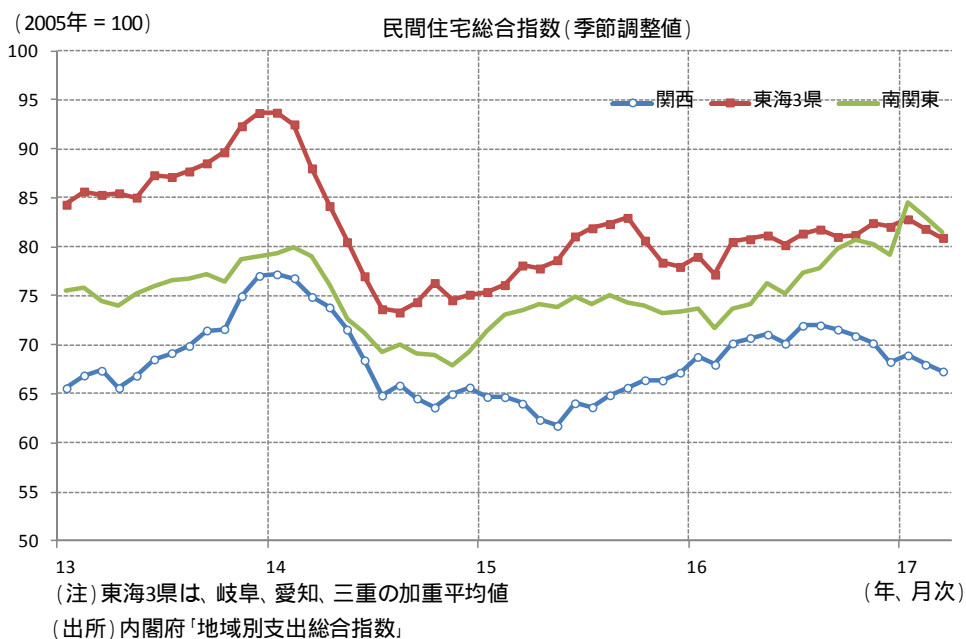
(出所) 内閣府「地域別支出総合指数」、「消費総合指数」

6. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している

17年5月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比で-2.7%と2ヶ月ぶりに減少したが、均してみると横ばい圏で推移している。前年比でも-2.4%(8,282戸)と2ヶ月ぶりに減少した。利用関係別の寄与度は、分譲は2ヶ月ぶりにプラスとなったが、持家、貸家はともに2ヶ月ぶりにマイナスとなった。先行きについては、弱含みでの推移が見込まれる。

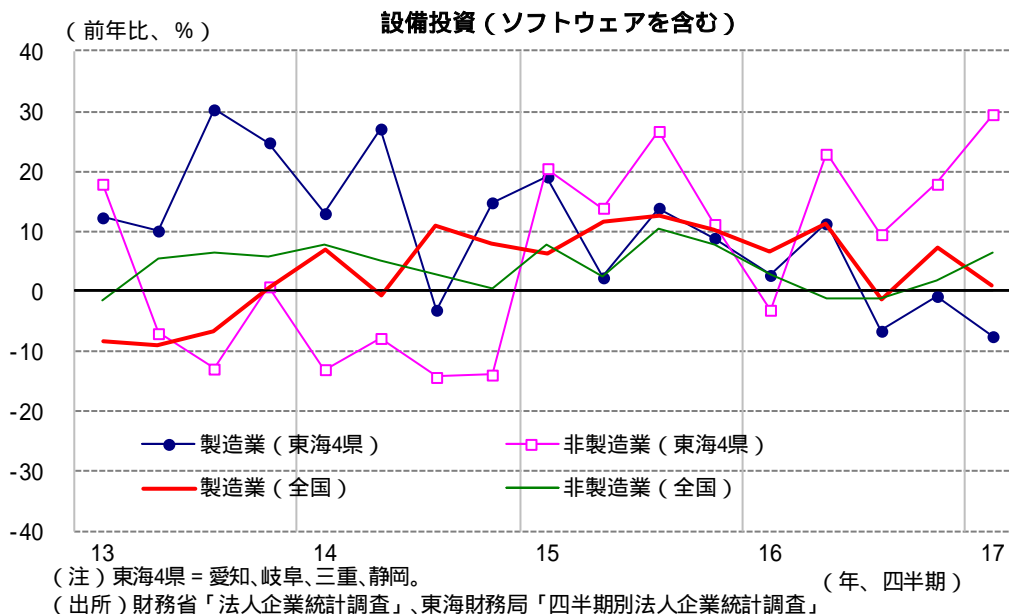


内閣府が5月に公表した地域別民間住宅総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、2015年8月をピークに弱い動きとなった後、16年に入って持ち直しの動きが続いていたが、足下で持ち直しが一服している。

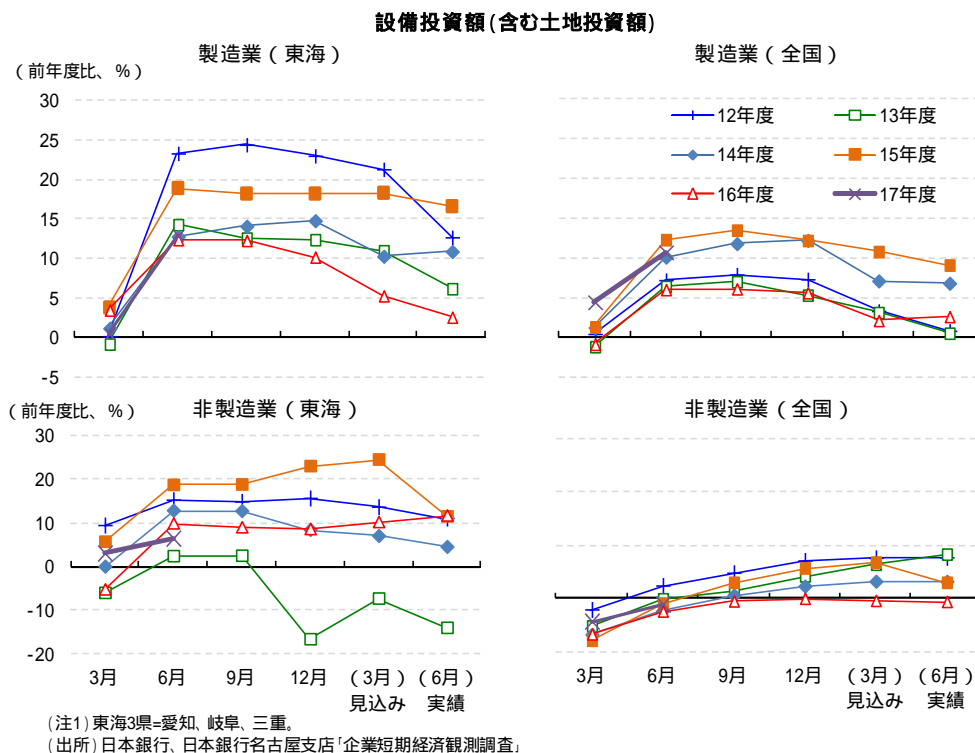


7. 設備投資 ~ 非製造業を中心に増加している

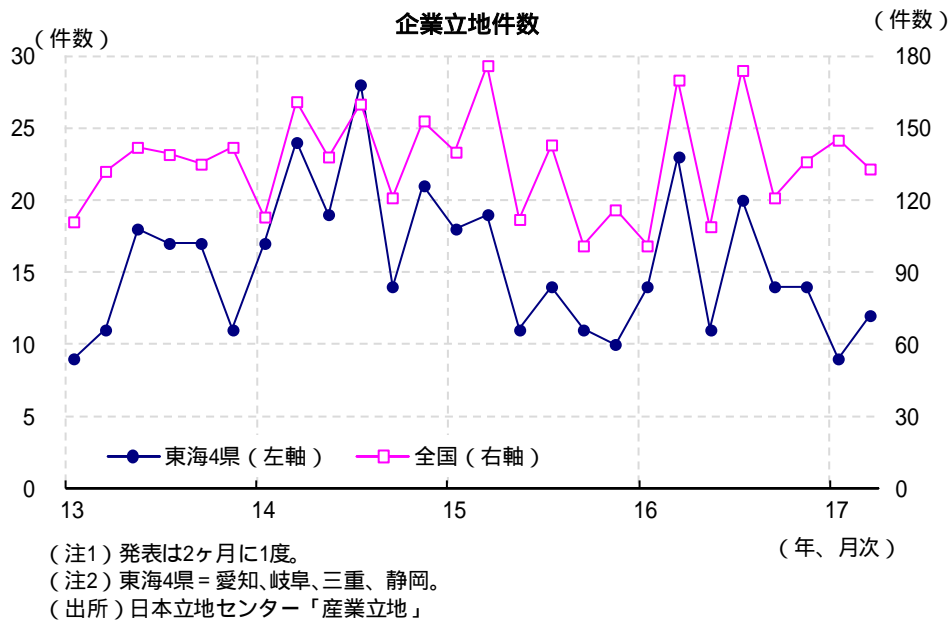
2017年1~3月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+8.4%と10四半期連続で増加した。製造業が同-7.5%と3四半期連続で減少したが、非製造業は同+29.5%と4四半期連続で大幅に増加した。東海の設備投資は非製造業を中心に増加している。



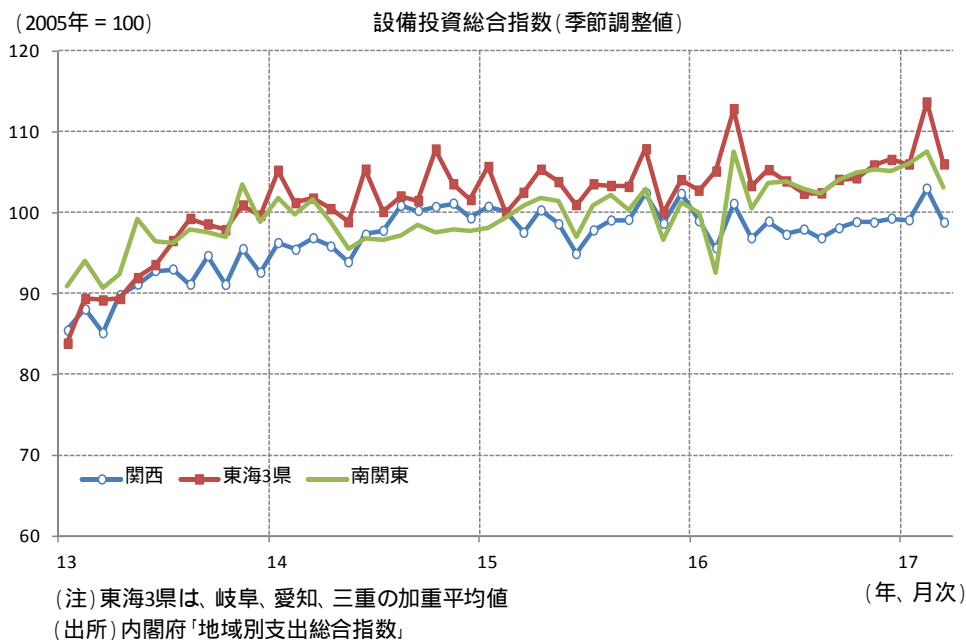
日銀短観6月調査によると、東海3県の16年度の設備投資実績は、全産業で前年比+6.7%、製造業で同+2.6%、非製造業で同+11.7%となった。非製造業が大きく伸びたことにより、全体でも全国を上回る伸びとなった。17年度の計画は、全産業で同+9.8%、製造業で同+12.9%、非製造業で同+6.4%と引き続き全国を上回る伸びが計画されている。



2017年2・3月の東海4県の企業立地件数は12件と、前期(2016年12・2017年1月;9件)を上回ったが、前年同期(23件)を下回った。東海地区の企業立地は全国と同様に15年度前半は減少傾向で推移した後、15年度後半以降は振幅しながらも横ばい圏で推移している。

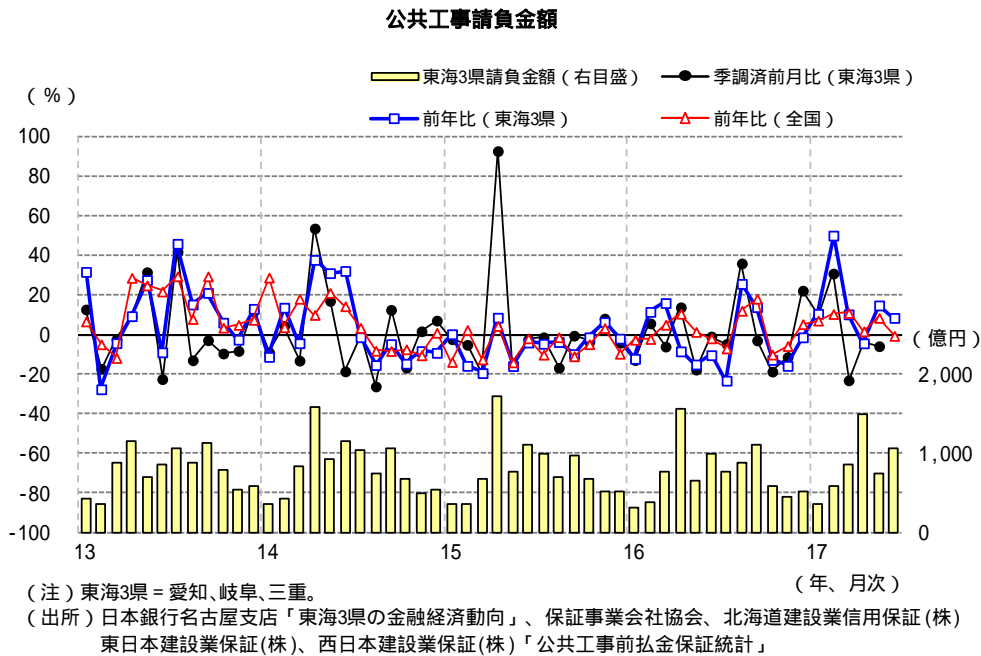


内閣府が5月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の民間企業設備投資は、2016年半ば以降、持ち直している。

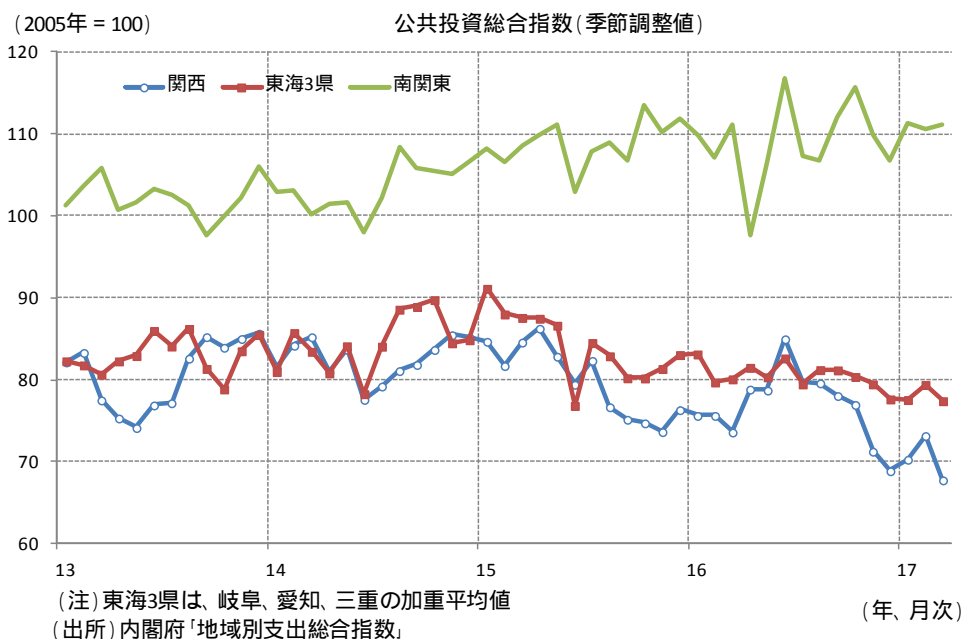


8. 公共投資 ~ 弱含み

6月の東海3県の公共工事請負額は、前年比+8.5%の757億円と2ヶ月連続で前年を上回った。発注者別では、国は同+30.6%と2ヶ月連続で増加し、地方は同+2.8%と6ヶ月連続で増加した。年度累計では同+3.5%と2ヶ月連続で増加となった。一方、5月の季調済み前月比は-5.8%と3ヶ月連続で減少した。先行きについては、横ばい圏での推移が見込まれる。

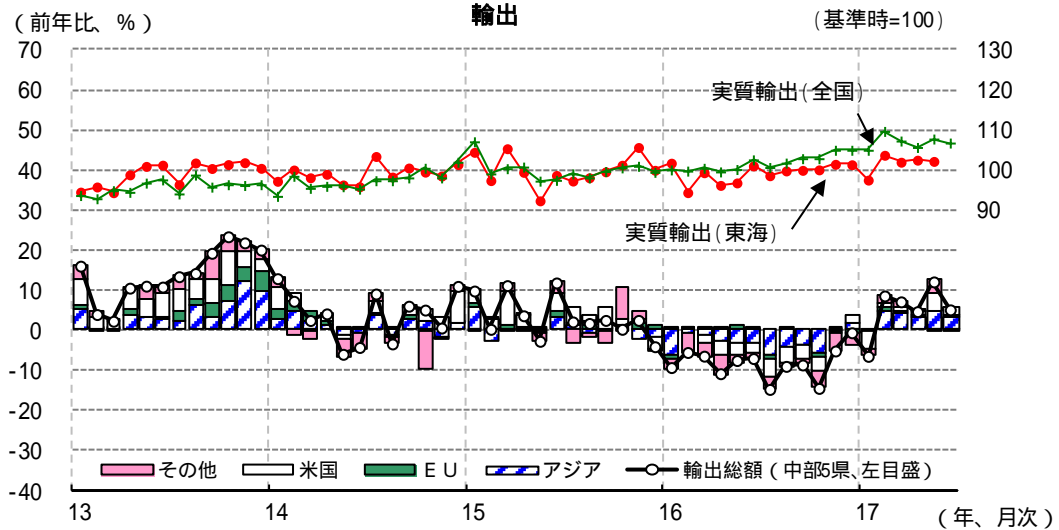


内閣府が5月に公表した地域別公共投資総合指数によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの公共投資は、2015年以降、減少傾向で推移している。



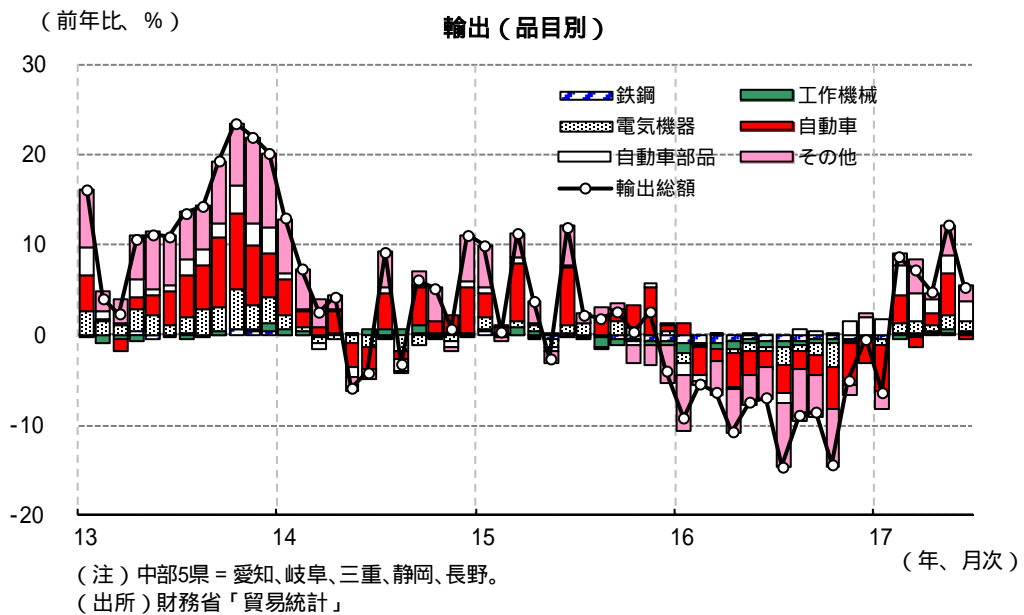
9. 輸出入 ~ 輸出、輸入ともに横ばい

5月の実質輸出(季調済)は前月比-0.3%と2ヶ月ぶりに減少した。東海の輸出は均して見ると横ばいで推移している。一方、6月の名古屋税関管内の輸出額は前年比+5.3%と5ヶ月連続で増加した。米国向けは同+6.1%、中国向けは同+27.1%、アジア向け(含む中国)は同+8.1%、EU向けは同+7.1%と増加した。先行きについては、世界経済が緩やかに回復する中、緩やかな持ち直しが見込まれる。

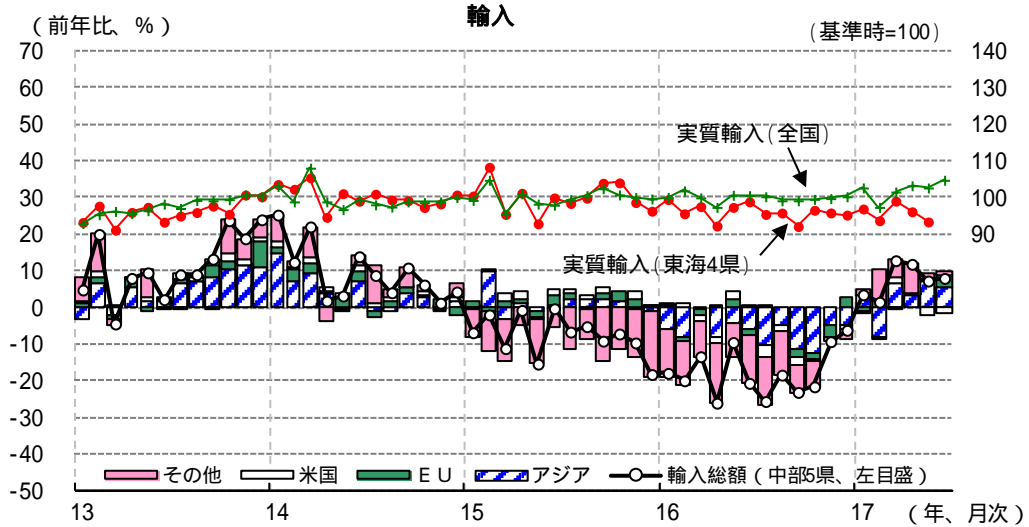


- (注1) 実質輸出は全国、東海4県ともに2015年基準。
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

6月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、自動車(前年比-1.1%)が3ヶ月ぶりに減少したが、自動車部品(同+18.8%)は11ヶ月連続で増加し、鉄鋼(同+22.5%)と電気機器(同+9.8%)は5ヶ月連続で増加し、工作機械(同+1.1%)は3ヶ月連続で増加した。



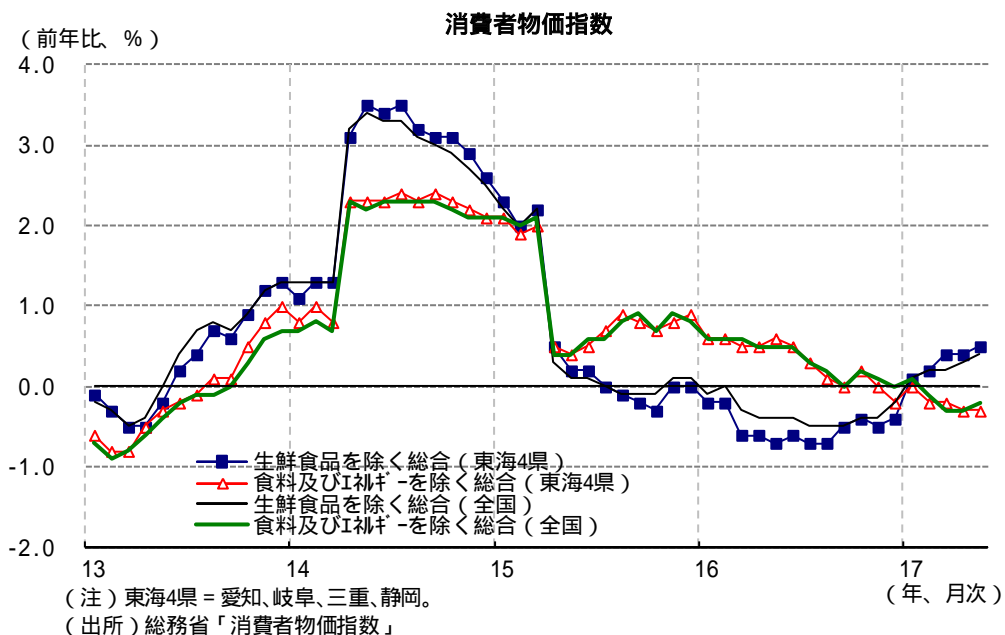
5月の実質輸入(季調済)は、前月比 - 2.9%と2ヶ月連続で減少したが、均して見ると横ばい圏で推移している。一方、6月の名古屋税関管内の輸入額は前年比 + 8.0%と6ヶ月連続で増加した。品目別には、原油及び粗油などが減少したが、石油製品などが増加した。地域別には、米国は減少したが、中国、アジア(含む中国)などは増加した。今後は、国内の需要動向を反映して、実質輸入は横ばい圏での推移が見込まれる。



(注1) 実質輸入は全国、東海4県ともに2015年基準。
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県 = 愛知、岐阜、三重、長野。
 (出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

10. 物価 ~ 緩やかに上昇

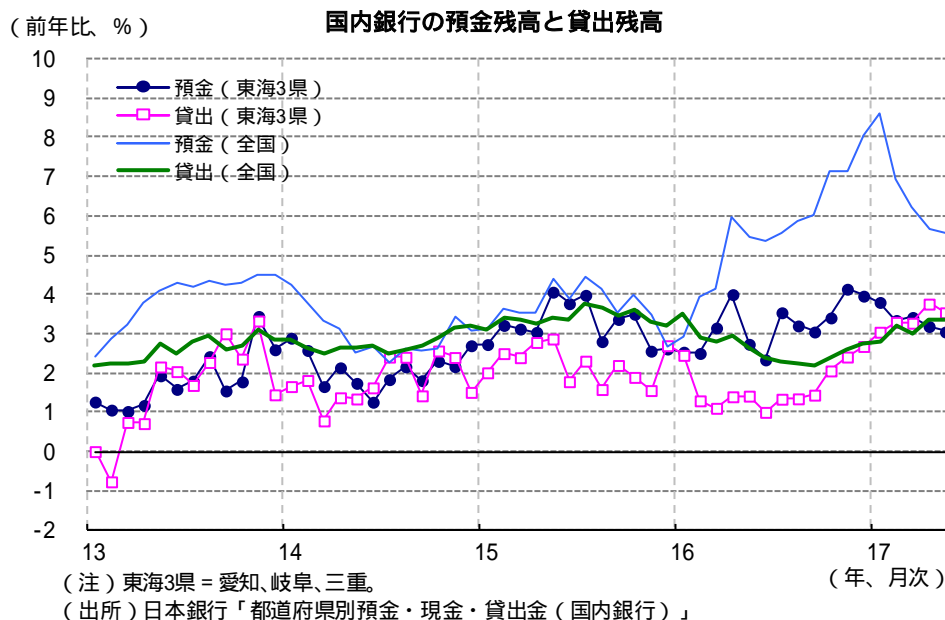
5月の東海4県の消費者物価は、生鮮食品を除く総合で前年比 + 0.5%と5ヶ月連続で上昇した。食料品価格やエネルギー価格が上昇している。食料・エネルギーを除く総合は同 - 0.3%と4ヶ月連続で低下した。今後については、円安による輸入物価上昇の影響もあって、消費者物価の前年比プラス幅は緩やかに拡大していく見込みである。



(注) 東海4県 = 愛知、岐阜、三重、静岡。
 (出所) 総務省「消費者物価指数」

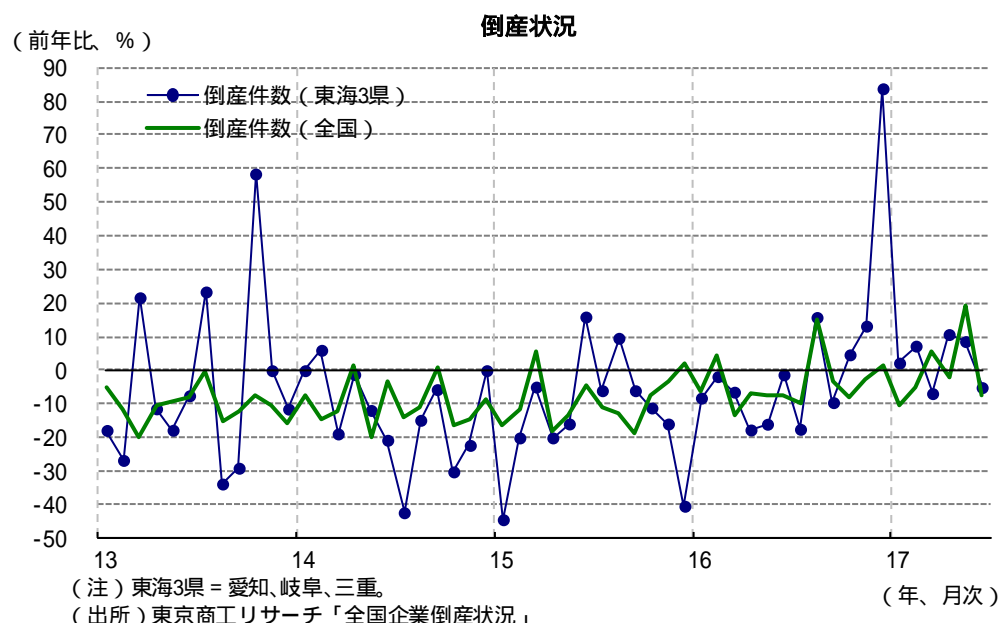
11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

17年5月の東海3県の預金残高(国内銀行ベース)は、法人預金が増加していることを主因に、前年比+3.1%と増加が続いている。貸出残高(国内銀行ベース)は、同+3.5%と51ヶ月連続で増加した。日銀名古屋支店では「資金需要が持ち直していることから」貸出が増加しているとみている。貸出残高は今後も緩やかな増加が続くと見込まれる。



12. 倒産 ~ 倒産件数は減少、負債総額は増加

6月の東海3県の倒産件数は前年比-5.1%の75件(前年同月79件)と3ヶ月ぶりに減少した。県別では、岐阜県は18件(同13件)と3ヶ月ぶりに増加し、三重県は7件(同2件)と2ヶ月ぶりに増加したが、愛知県は50件(同64件)と3ヶ月ぶりに減少した。一方、6月の東海3県の負債総額は同+36.6%の164億円と4ヶ月ぶりに前年を上回った。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗		↗	全国	↗		↗	
	東海	↗		→	輸出	東海	→		↗
	関西	↗		↗	関西	→		↗	
個人消費	全国	↗		→	全国	→		→	
	東海	↗		→	輸入	東海	→		→
	関西	→		→	関西	→		→	
住宅投資	全国	→		↘	全国	↗		↗	
	東海	→		→	生産	東海	↗		↗
	関西	→		→	関西	→		↗	
設備投資	全国	↗		↗	全国	↗		→	
	東海	↗		↗	雇用	東海	↗		→
	関西	↗		↗	関西	↗		→	
公共投資	全国	→		↗	全国	→		→	
	東海	↘		→	賃金	東海	→		→
	関西	↘		↘	関西	→		→	

: 晴れ
 : 薄日
 : 曇り
 : 小雨
 : 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す
 3. 全国は7月4日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。
 4. 関西については、東海のレポート公表時の暫定であり、関西のレポート公表時に見直す場合がある

【各項目のヘッドライン】

項目		6月のコメント	7月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
	関西	緩やかに持ち直している	持ち直しの動きが弱まっている
2. 生産	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
	関西	持ち直している	持ち直しが一服
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
5. 個人消費	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
6. 住宅投資	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
7. 設備投資	全国	緩やかに増加している	緩やかに増加している
	東海	非製造業を中心に増加している	非製造業を中心に増加している
	関西	製造業を中心に持ち直しの動きが見られる	製造業を中心に持ち直しの動きが見られる
8. 公共投資	全国	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	東海	弱含み	弱含み
	関西	足下で増加	減少している
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直している、 輸入は横ばい圏で推移している	輸出は持ち直している、 輸入は横ばい圏で推移している
	東海	輸出は持ち直し、 輸入は横ばい	輸出、輸入ともに横ばい
	関西	輸出は持ち直し、 輸入は横ばい	輸出、輸入ともに横ばい
10. 物価	全国	企業物価は上昇、 消費者物価は緩やかに上昇	企業物価は上昇、 消費者物価は緩やかに上昇
	東海	緩やかに上昇	緩やかに上昇
	関西	横ばい	横ばい
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに 緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに 緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数は減少、負債総額は増加
	関西	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少

(注) 1. シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

2. 関西については、東海のレポート公表時の暫定であり、関西のレポート公表時に見直す場合がある

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。